

令和3年度用

技術・家庭「家庭分野」

—生活の土台 自立と共生—

新しい教科書が
すぐに使える！

指 導 計 画 例



令和3年度用
内容解説
資料

目 次

[例 1] 教科書にそって、1時間ごとのまとまりを重視し、主体的な学習に取り組み、基礎・基本の定着をめざした指導計画案……………2	[例 3] 「C 消費生活・環境」をABCの内容に盛り込み、3年間に配置した指導計画案……………8
[例 2] 学習内容を発達段階に合わせて分け、全学年に調理実習を配置した指導計画案……………4	[例 4] 2学期制対応の、持続可能な社会への見方・考え方を大切にしたい指導計画案……………12
	技術・家庭 家庭分野の評価の観点とその趣旨……………裏表紙



この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成、配布しております。

【例1】 教科書にそって、1時間ごとのまとまりを重視し、主体的な学習に取り組み、基礎・基本の定着をめざした指導計画案

週(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
1年 35時間	A 家族・家庭生活			B 衣食住の生活 [食生活]																																		
	1 自分の成長と家族・家庭生活	2 幼児の生活と家族		1 食事の役割と食習慣		2 中学生に必要な栄養を満たす食事					3 さまざまな食品とその保存					4 日常食の調理										5 地域の食文化												
	家庭分野ガイダンス	今の自分とこれまでわたしの生活と家族・家庭	中学生にとっての家族家庭を支える社会	食事の役割	健康によい食習慣	中学生の発達に必要な栄養	栄養素のはたらきと6つの基礎食品群					献立ステップ1 栄養バランスを目で見て判断	生鮮食品の選択と保存 食品が食卓にのぼるまで					加工食品の選択	食品の安全と情報	調理の計画		おいしく調理(実験含む)		ますます好きになる肉の調理	調理実習	こんなにおいしい魚の調理	調理実習	好きになる野菜の調理	調理実習	地域の食文化	調理実習 (雑煮・手打ちうどんなど)		献立ステップ2	持続可能な食生活をめざして				
	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1	2	2	1	2	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	2	2	2	3	2	1						
	A(1), B, C	A(1)	A(2)ア(ア)	B(1)ア(ア)	B(2)ア(イ), イ	B(2)					B(3)ア(ア)(イ)					B(3)ア(ウ)										B(3)ア(エ)					B(2)イ	B(1)(2)(3), C						
i~iii, 1~11	16~19	20~21	72~73	74~79	80~81	82~93	94~97	96~97	100~103	104~105	106~107	108~113	114~121		121~	129	130~139		140~145					146~151	152~153													
2年 35時間	A 家族・家庭生活			B 衣食住の生活 [衣生活]										B 衣食住の生活 [住生活]										C 消費生活・環境					生活の課題と実践									
	4 家庭生活と地域のかかわり					1 目的に応じた衣服の選択					2 日常着の手入れと保管					3 生活を豊かにするもの製作					4 持続可能な衣生活		1 住まいのはたらきとこころよさ		2 安全な住まいで安心な暮らし			3 持続可能な住生活		1 家庭生活と消費	2 購入・支払いと生活情報		3 消費者被害と消費者の自立					
	家庭生活と地域での活動	多様な人びとが暮らす地域	地域に暮らす高齢者	介助体験	高齢者とのかかわり	衣服で伝わるメッセージ 自分らしくコーディネート	つなげよう和服の文化(着つけ)	上手な衣服の選択	まかせて衣服の手入れ	布の繊維に応じた手入れ	めさそう洗たく名人	補修や収納・保管	布による作品で生活を演出					製作実習	持続可能な衣生活をめざして	住まいのはたらき	住まいの空間	家庭内事故への備え			災害への備え	持続可能な住生活をめざして	消費生活のしくみ 家庭生活における収入と支出	購入前に知っておくこと 「売買契約」		いろいろな支払い方法 情報を活用した上手な購入	なくならない消費者被害	消費者を支えるもの	消費者の権利と責任	生活の課題と実践・ 課題設定と計画				
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	5	1	1	1	3	2	1	1	1	3	2	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1		
	A(3)ア(イ)イ					B(4)ア(ア)					B(4)アイ					B(5)					B(4)(5)C	B(6)ア(ア)		B(6)ア(イ)イ			B(6)C	C(1)		C(2)		A(4)B(7)C(3)						
56~57	58~59	60~61	62~63	162~165	164~169	174~175	176~179	180~181	182~185	186~187	188~201					202~203	208~209	210~213	214~217		218~221		222~223	230~233	234~237	238~245	246~249	250~251	252~255	268~277								
3年 17.5時間	生活の課題と実践	A 家族・家庭生活										C 消費生活・環境					まとめ																					
		2 幼児の生活と家族					3 幼児のかかわり					4 持続可能な社会																										
	生活の課題と実践 報告会・評価	幼児のこころと今の自分	幼児の体の発達	幼児の心の発達	発達にとってのおとなの役割	遊びが必要なわけ	遊びを支える環境	ふれ合い体験の前に	ドキドキワクワク ふれ合い体験	ふれ合い体験は 幼児からの贈り物	子どもの成長と地域	持続可能な家庭生活をめざして	消費行動が社会に与える影響	消費行動が環境に与える影響	世界の国々と連帯した 持続可能な生活の創造へ	学習のまとめ																						
	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.5				
A(3)B(7)C(3)	A(2)										AC					C(2)ABC					全																	
268~277	26~27	28~29	30~31	32~35	36~37	38~41	42~43	44~49	50~51	52~55	64~65	256~257	258~263																									

■「A 家族・家庭生活」の内容を3学年に分けて配置し、「C 消費生活・環境」を2年と3年に配置しながらも、教科書の配置にそって無理なく授業が進められる指導計画です。

- ・教科書にそって1時間ごとのまとまりを重視しながら、基礎・基本の定着がはかられるようにしています。
- ・「生活の課題と実践」は2年の最後に、2年間の学習の中から課題を見つけ、課題設定・計画を行い、春季休暇を活用して実践し、3年の最初に報告会・評価の時間を設けています。

【例2】 学習内容を発達段階に合わせて分け、全学年に調理実習を配置した指導計画案

週(時)	A 家族・家庭生活								B 衣食住の生活																										
	ガイダンス	自分と家族		家庭生活と地域のかかわり				健康な食生活 (その1)													健康な衣生活														
1年 35時間	学習内容	今までの自分と今の自分	・家族・家庭の機能 ・自分と家族のかかわりを考えよう ・家庭生活を支える社会		・多様な人びとが暮らす地域 ・地域に暮らす多様な高齢者 ・高齢者を招いて茶話会 ・高齢者との関わりを考える				中学生の食生活と栄養 ・食事が果たす役割 ・栄養素の種類とはたらき ・食品の栄養的特質 ・調理実習： ①米粉のだんご 調理実習 復習カード交流 ・栄養素の種類とはたらき ・食品の栄養的特質 ・調理実習： ②豚肉のしょうが焼き さやえんどうのソテー ③コンソープ ひじきの煮物 包丁テスト ・栄養素の種類とはたらき ・食品の栄養的特質 ・調理実習： ④豚汁、青菜のごまあえ 1日分の献立と調理													・衣服のはたらき ・和服と洋服 ・標準服の観察と衣服の表示 ・繊維に適した手入れ ・衣類の汚れの種類と汚れ落とし ・環境に配慮した洗濯機での洗濯 ・洗濯用洗剤の選択 ・着られなくなった衣服について考えよう ・布の成り立ち ・裂き織り、裂き編みで布を作ろう													
	授業時数	1	3		4				4													3													
	学習指導要領	A(1)ア	A(3)ア(アイ)		A(3)ア(イイ)				B(1)ア(ア)(イイ)(2)ア(ア)(イイ)(3)ア(ア)(イ)(ウイ)(7)													B(4)ア(ア)(イイ)(7)													
	教科書該当頁	16～17	18～25		56～65				72～103, 106～121, 130～137, 146～151, 156～159													162～185													
		B 衣食住の生活								C 消費生活・環境				B 衣食住の生活										C 消費生活・環境						A 家族・家庭生活					
2年 35時間	学習内容	環境に配慮した衣生活		SDGs と生活				健康な食生活(その2)										安全でやさしい住まい						消費生活と社会				消費者の権利と責任		子どもの成長と発達					
	学習内容	持続可能な衣生活 ・手ぬぐいでつくる袋物と実技テスト(まつり縫い・スナップつけ)		製作した袋物の使用レポート交流				食品の選択と調理 ・手づくり食品と調理済み食品 調理実習：ハンバーグの比較 ・生活の課題と実践： 1日分の献立と調理 ・住まいのはたらきと家族の住まい方 ・生活に必要な空間と大きさ ・安全な住まいとミニレポート ・災害への備え ・消費生活のしくみ ・生活にかかるお金 ・収入と支出 ・購入と支払い ・消費者アクションゲーム ・消費者被害 ・消費者の権利と責任 ・消費者を支えるものミニレポート 自分の成長をふり返る 幼児の発達の特徴										消費生活と社会						消費者の権利と責任				子どもの成長と発達							
	授業時数	1		6				2										4						3				4		2					
	学習指導要領	B(4)イ(5)アイ		C(2)ア(3)				B(3)ア(ア)(イ)(ウイ)(7)										B(6)ア(ア)(イイ)(7)						C(1)ア(ア)(イイ)(2)アイ				A(1)ア							
	教科書該当頁	186～203		256～263				96～105, 118, 119, 152, 153										208～225						230～255, 264, 265				26～29							
3年 17.5時間	学習内容	A 家族・家庭生活				B 衣食住の生活													3年間をふり返って																
	学習内容	子どもの成長と環境				健康な食生活(その3)																													
	学習内容	・幼児の生活と発達の特徴 ・幼児の成長・発達と遊び ・絵本の分析 幼児のおやつ作り チーズ蒸しパン・わかめうどん 調理実習 ・幼児を学校に招いてふれ合い体験 ・子どもが育つ環境 ・子どもの成長と地域 ・自分の食生活をふり返る ・日本型食生活 ・魚を食べよう 調理実習： いわしの手開き ・地域の食材と食文化 ・調理実習： 地元の野菜を使って ・地域と世界に目を向けて																																	
	授業時数	3				2															0.5														
	学習指導要領	A(2)ア(ア)(イイ) B(3)ア(ウ)				B(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)															全て														
教科書該当頁	28～57, 64～67, 109, 138～139				74～77, 104, 105, 122～135, 140～145, 152～155																														

■ この年間指導計画例は、「A 家族・家庭生活」と「B 衣食住の生活」の「食生活」についての学習内容を生徒の発達段階に合わせて配置した例で、次の4点に配慮しています。

- ・3年間を通して、家庭生活と社会のつながりに目を向けることができるようにしています。
- ・学んだことの定着をはかり、日常生活に生かすことができるようにするために、各学年に調理実習を取り入れ、技能の定着もはかれるようにしています。
- ・地域の人や様子に目を向けることができるように、高齢者や幼児を学校に招いたり、地域性を生かした調理実習の題材を取り入れるようにしています。
- ・学習内容や学習形態に、人とのつながりを意識的に盛り込むようにしています。

例2の学習指導案

第1学年 評価の観点：知・技…知識・技能 思・判・表…思考・判断・表現 主…主体的に学習に取り組む態度

学習内容 (頁は教科書該当頁)		時間数	学習活動 【この項の学習課題/〇生徒の活動, ☆教師の活動】	評価の観点
A 家族・ 家庭生活	家庭分野 ガイダンス	1	■これまでの自分と、小学校の学習をふり返し、自分の成長を確認しよう。 ○ワークシートや話し合いによって、これまでの自分をふり返る。 ■3年間の学習の見直しをもち、自立した生活者をめざそう。 ☆家庭科の学習が生活の自立や持続可能な社会の形成につながることに気づかせる。	知・技
	自分と家族	3	■家族・家庭の基本的な機能を知り、自分と家族のかかわりを考えよう。 ○グループワークにより、家庭や家族の基本的な機能について理解する。 ○アニメやドラマの家族からそれぞれの家族が大切にしているものに大きな違いがあることを知る。 ○視聴覚教材を視聴し、家族と協力したり、家族関係をよくしたりする方法を考える。 ☆各自が考えたことの発表内容から、気づきにつながるようにする。	知・技
	家庭生活と地域	4	■家庭生活と地域のつながりや、地域の多様な人びとについて知ろう。 ○地域にあるさまざまな家庭の支援施設やしくみを調べてみよう(聞き取り調査) ○高齢者を招いて茶話会を実施し、地域の課題を見つけ、解決方法を考える。 ☆ゲストティーチャーの話を聞かせたり、茶話会を実施したりして、地域には、家庭を支えるしくみがあり、高齢者をはじめとして多様な人びとが暮らしていることに気づかせるようにする。	知・技 思・判・表 主
B 衣食住の 生活	健康な食生活 (その1) 中学生の食生活と 栄養	4	■健康な食生活の内容を知り、日常食の調理実習を通して食品と栄養素のはたらきを理解しよう。 ○食事調べを自分の食生活を振り返り、それぞれの問題点を見つける。 ☆6つの基礎食品群についての説明をするときに、給食との関係にも触れる。 ○米粉でだんごの調理実習をする。 ☆炭水化物の体内ではたらきと5群の食品について説明する。	知・技 思・判・表 主
	1. 食事の役割と食習慣 (p.72～79) ①食事の役割 ②健康によい食習慣	1	○復習として家庭で米粉のだんごをつくり、家族に食べてもらう課題をする。	知・技
		5	○豚肉のしょうが焼き、さやえんどうのソテーの調理実習をする。 ☆たんぱく質、脂質の体内ではたらきと1群、6群の食品について説明する。 ○コンソープ、ひじきの煮物の調理実習をする。 ☆無機質の体内ではたらきと2群の食品について説明する。	知・技 思・判・表 主
		1	○包丁名人テストを通して、いろいろな切り方を学ぶ。	知・技
	2. 中学生に必要な栄養を満たす食事 (p.80～95) ①中学生の発達と必要な栄養 ②栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ③栄養バランスを目で見て判断	4	○豚汁、青菜のごまあえの調理実習をする。 ☆ビタミンの体内ではたらきと3群、4群の食品について説明する。	知・技 思・判・表 主
		1	○これまで実習してきたことをもとに、中学生の1日分の献立を考える。 ☆一汁二菜の献立形式について説明する。	知・技
		4	○調理の計画 ③おいしさ調理 ③ますます好きになる肉の調理 ⑤好きになる野菜の調理	知・技 思・判・表 主
健康な衣生活	1. 目的に応じた衣服の選択 (p.162～173) ①衣服で伝わるメッセージ ②自分らしくコーディネート ③つなげよう和服の文化 ④上手な衣服の選択	3	■衣服のはたらきを知り、健康で自分らしく着るためには、どうしたらよいか考えよう。 ○標準服などの表面や表示を観察し、ワークシートに記入する。 ☆衣服のはたらきと健康を損なう着方の例などについて説明する。 ☆既製服の表示の意味を説明する。 ○和服の着装を見て、和服と洋服の違いを知る。 ☆平面構成、立体構成の特徴を比較して、人体と衣服の関係も考えられるようにする。	知・技 思・判・表 主
		4	■衣服を快適に着用するために、日常着の手入れができるようにしよう。 ○衣類の種類と汚れ落としについて理解する。 ○布や繊維の観察・実験を通して布や繊維の種類と特徴について知る。 ○環境に配慮した洗濯機での洗濯の課題を家庭で行い、結果を交流する。 ○洗濯用合成洗剤と石けんの違いについて理解する。 ☆繊維や洗剤類は実物を用意し、視聴覚教材も使ってわかりやすい説明をする。	知・技 思・判・表 主
	2. 日常着の手入れと保管 (p.174～185) ①まかせて衣服の手入れ ②布の繊維に応じた手入れ ③めざそう洗濯名人 ④補修や収納・保管	4	■資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考えよう。 ○古着のゆくえの視聴覚教材を見て、衣生活のリサイクルについて知り、自分にできそうなことや身近な例について考える。 ○裂き織りと裂き編みをするによって、古着や古布の再利用について考え、布の成り立ちについても理解する。 ☆布を作るという体験を通して、環境への配慮や人間の知恵についての理解が深まるようにする。	知・技 思・判・表 主
		4	○裂き織りと裂き編みをするによって、古着や古布の再利用について考え、布の成り立ちについても理解する。 ☆布を作るという体験を通して、環境への配慮や人間の知恵についての理解が深まるようにする。	知・技 思・判・表 主

第2学年

学習内容 (頁は教科書該当頁)		時間数	学習活動 【この項の学習課題/〇生徒の活動, ☆教師の活動】	評価の観点	
B 衣食住の 生活	環境に配慮した 衣生活	4. 持続可能な衣生活 (p.202～203) 持続可能な衣生活をめざして	1	■自分でつくった裂き織りと裂き編みの布の利用方法を発表しよう。 ○1年3学期に作った裂き織りと裂き編みの布を春休みに使用し、その結果を発表する。 ☆つくった物を使用してみた感想を交流し、生活を見つめるきっかけとする。	思・判・表 主
		3. 生活を豊かにするものの製作 (p.186～201) 布による作品で生活を演出 製作の基礎・基本	6	■和手ぬぐいを使って簡単な手提げ袋をつくり、使ってみよう。 ○和手ぬぐいを使った手提げ袋を製作する。 ○製作の手順、まつり縫い、スナップつけの方法を理解する。 ☆製作の手順、まつり縫い、スナップつけについて説明し、必要に応じて実技テストを行う。 ○完成した手提げ袋を学校行事などで使用し、レポートを提出する。	知・技 思・判・表 主
	1	○手ぬぐいの袋を使用したレポートを発表し合う。 ☆自分の縫いや、使い心地についての感想や改善点が言えるようにする。	思・判・表 主		
C 環境生活・	SDGsと生活	3	■環境に配慮した生活を調べたり、実行したり、考えたりしよう。 ○エコな生活の工夫を家庭で実践し、レポートにして発表する。 ○持続可能な社会へ向けて地域の取り組みが行われていることを知り、聞き取り調査を行う。 ☆持続可能な社会は、家庭単独だけでなく地域社会の取り組みが効果を上げることが理解できるようにする。 ☆持続可能な社会の創造にはエシカル消費が大切であることも補足する。	知・技 思・判・表 主	
B 衣食住の 生活	健康な食生活 (その2) 食品の選択と調理	3. さまざまな食品とその選択 (p.96～105) 食品が食卓にのぼるまで ①生鮮食品の選択と保存 ②加工食品の選択 ③食品の安全と情報	2	■健康な食生活を送るために食品についての知識を増やし、情報を自分で判断する大切さを知ろう。 ○加工食品の表示を調べ、表示内容の読み方と意味を知る。 ☆生鮮食品と加工食品の特徴、食品加工の目的と保存の原理、食品添加物、保存方法は、表示を見ながら説明を補足する。	知・技 思・判・表 主
			2	■食品の安全と情報について気をつけることは何か考えてみよう。 ○食品の安全と情報について、過去に起こった事例や気をつけていることを周囲の大人に聞き取りをして、発表する。 ☆正しい知識や関心をもち、安全を求めて行動することは、消費者としての権利であり、責任であることにも触れる。	

第2学年

学習内容 (頁は教科書該当頁)		時間数	学習活動 【この項の学習課題/〇生徒の活動, ☆教師の活動】	評価の観点	
B 衣食住の 生活	健康な食生活 (その2) 食品の選択と調理	4	生活の課題と実践 (p.272～273) ○ハンバーグの調理実習をして、手づくり食品と加工済み食品の比較をする。 ☆実習で使った調理済み食品のパッケージなどから食品の安全と情報について補足説明し、どのように食品を選ぶか考えさせる。 ○これまで実習してきたことをもとに、ハンバーグを主菜とした食事を含む1日分の献立を考え、そのうちの1食分を家でつくり、レポート発表する。	思・判・表 主	
	安全でやさしい 住まい	3	1. 住まいのはたらきとここちよさ (p.208～213) ①住まいのはたらき ②住まいの空間 2. 安全な住まいで安心な暮らし (p.214～223) ①家庭内事故への備え ②災害への備え	■住まいの役割を知り、家族によっていろいろな住まい方の工夫ができるようにしよう。 ○同じ間取りでも、いろいろな家族構成や生活スタイルによって、使い方が違うことを知り、快適な住まい方を考える。 ☆住まいの基本的な機能や、間取り図の読み方、広さ、広告の読み方について説明する。	知・技 思・判・表 主
C 消費生活・ 環境	消費生活と社会	4	1. 家庭生活と消費 (p.230～233) ①消費生活のしくみ ②家庭生活における収入と支出 2. 購入・支払いと生活情報 (p.234～245) ①いろいろな購入方法 ②購入前に知っておくこと ③いろいろな支払い方法 ④情報を活用した上手な購入	■生活にかかるお金の収入と消費のバランスの大切さを知ろう。 ○各自が設定した家族構成で、生活にかかる金銭がどのくらい必要か項目に分けて計算してみる。 ☆何を重視して生活するかで、収入と消費の仕方が違ってくることに気づかせる。 ☆収入と消費のバランス、ニーズとウォンツについても再度説明する。 ■さまざまな購入・支払い方法について知り、消費生活のトラブルを防ごう。 ○さまざまな購入・支払い方法があることを知る。 ○消費者アクションゲームを行い、消費生活におけるトラブルとその解決方法を知る。 ☆キャッシュレス化やクレジットカードなどの三者間契約についても、視聴覚教材などを使って説明する。 ☆ゲームの勝ち負けではなく、トラブルの種類や対処方法について学ぶことを補足する。	知・技 思・判・表 主
	消費者の権利と責任	4	3. 消費者被害と消費者の自立 (p.246～255) ①なくならない消費者被害 ②消費者を支えるもの ③消費者の権利と責任	■消費者の権利と責任について理解し、人と地球にやさしい消費者になろう。 ○消費者アクションゲームにもあるような消費者トラブルがなくなるのにはなぜなのか考えたり、話し合ったりする。 ○地域の消費生活センター、国民生活センター、消費者庁、企業の消費者窓口などで消費者を支えるしくみについて調べてミニレポートを作成し、交流する。 ○消費者トラブルを無くすには、どのように行動していけば良いか話し合い、発表する。 ☆話し合いが表面的にならないように、具体的な事例や考え方ができるように支援する。	知・技 思・判・表 主
	A 家庭生活	子どもの成長と発達	2	2. 幼児の生活と家族 (p.26～29) ①幼児のころと今の自分 ②幼児の体の発達	■自分の幼児のころをふり返し、今の自分の成長を確認しよう。 ○自分の幼児の頃を思い出し、興味があったものや、好きだった物、印象深かったことを書き出す。 ○幼児の体の発達について理解する。 ☆体の発達については、今の自分との大きさや機能の違いがわかるように、写真や疑似体験を使って、説明する。

第3学年

学習内容 (頁は教科書該当頁)		時間数	学習活動 【この項の学習課題/〇生徒の活動, ☆教師の活動】	評価の観点	
A 家族・ 家庭生活	子どもの成長と環境	2. 幼児の生活と家族 (p.30～41) ①幼児の心の発達 ②発達にとってのおとなの役割 ③遊びが必要なわけ ④遊びを支える環境	3	■幼児の生活や発達の特徴・遊びの意義について知り、周囲の人の役割について考えよう。 ○幼児の生活や発達の特徴を知る。 ○遊びの意義を知り、おもちゃとしての絵本の分析と読み聞かせの練習をする。 ○幼児のおやつとしてのチーズ蒸しパン・わかめうどんの調理実習計画を立てる。 ☆実物大の写真や、幼児のおもちゃ、絵本など具体物を使いながら説明する。	知・技 思・判・表 主
		1	■幼児のおやつを作ろう。 ○調理実習(チーズ蒸しパン・混合だしのわかめうどん)をする。 ☆幼児の食生活の特徴についても説明する。	知・技 思・判・表 主	
	3. 幼児とのかかわり (p.42～51) ①ふれ合い体験の前に ②ドキドキワクワクふれ合い体験 ③ふれ合い体験は幼児からの贈り物	3	■幼児とふれ合いながら、幼児の発達の特徴や、楽しく関わるための工夫を考えよう。 ○保育園児を招き、絵本の読み聞かせをしたり、自分達が考えた遊びを行ったりする。 ○幼児とのふれ合い体験を通してわかったことをまとめる。 ☆事後のまとめでは、上手くいったこと、困ったことなどをまとめ、クラスで共有できるようにする。	知・技 思・判・表 主	
	④子どもの成長と地域 (p.42～51)	2	■子どもの健やかな成長を支える環境について調べよう。 ○地域の保育園、幼稚園、児童館、子育て家庭支援センター、児童福祉法、子どもの権利条約などについて調べ、レポートにまとめてクラス内で交流する。 ☆クラスの仲間のレポートを読み込み、さらに話し合ってみよう。	知・技 思・判・表 主	
B 食生活と 自立	健康な食生活 (その3) 食生活の課題と これからの食生活	1. 食事の役割と食習慣 (p.72～79) ①食事の役割 ②健康によい食習慣	2	■自分の食生活をふり返し、日本型食生活のよさを知ろう。 ○自分の食事調べをしたり、よく食べる料理の特徴を調べたりして、これまでの食に関する学習から課題を見つけよう。 ☆生活習慣病や家族の食の問題についても触れる。	知・技 思・判・表 主
		4. 日常食の調理 (p.115～121) ③こんなにおいしい魚の調理	2	○魚の調理実習(いわしの手開き)をする。 ☆日本近海の魚や日本型食生活との関係についても説明する。	知・技 思・判・表 主
	5. 地域の食文化 (p.140～145) 地域の食文化	2	■自分たちの食生活を、地域や世界的な視点から見直してみよう。 ○地元でとれる野菜の調理実習を通して、地域の食文化を理解する。 ☆行事食についても説明する。	知・技 思・判・表 主	
		6. 持続可能な食生活 (p.152～155)	2	○地産地消や食料自給率に関する視聴覚教材を見て、環境と日本の食料事情に配慮した食生活を考える。 ☆フードマイレージ、パーシャルウォーター、フェアトレード、エシカル消費などの語句も説明して確認する。	思・判・表 主
3年間をふり返って		0.5	○持続可能な家庭生活、地域、社会にするために、3年間の学習をふり返し、家族や地域の中の一人としてどう生きるかについてまとめる。 ☆あくまでも家庭科の視点を入れてまとめをするように留意する。	主	

【例3】「C消費生活・環境」をABCの内容に盛り込み、3年間に配置した指導計画案

週(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年 35時間	A 家族・家庭生活					C 消費生活・環境					B 衣食住の生活 [衣の生活]										B 衣食住の生活 [食の生活]														
	1 自分の成長と家族・家庭生活					1 家庭生活と消費 2 購入・支払いと生活情報					1 目的に応じた衣服の選択					2 日常着の手入れと保管					3 生活を豊かにするものの製作					4 持続可能な衣生活					1 食事の役割と食習慣 2 中学生に必要な栄養を満たす食事				
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭分野のガイダンス 今の自分とこれまで わたしの生活と家族・家庭 家庭を支える社会 <p>家庭の機能の安定にむけて</p>					<ul style="list-style-type: none"> 消費生活のしくみ 収入と支出 いろいろな購入方法 売買契約と支払い方法 消費者を支えるもの <p>消費生活センターとの連携</p>					<ul style="list-style-type: none"> 衣服で伝わるメッセージ 自分らしくコーディネート つなげよう和服の文化 上手な衣服の選択 <p>長く着られるものを選び、着なくなった衣服はコーディネートや再利用</p>					<ul style="list-style-type: none"> まかせて衣服の手入れ 布の繊維に応じた手入れ めざそう洗濯名人 補修や収納・保管 <p>衣服の購入は取扱い表示を確認、水環境を考えた洗濯、衣服を長持ちさせる補修</p>					<ul style="list-style-type: none"> 製作の基礎・基本 布による作品で生活を演出する <p>手ぬぐいを使ったブックカバー、小さくなったジーンズを利用したリバーシブルバッグ、シャツを活用したクッションカバーなど</p>					<ul style="list-style-type: none"> 省エネ衣生活、衣服の寿命の伸ばし方、古着は資源にする 					<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割 健康に良い食習慣 中学生の発達に必要な栄養 栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 <p>SDGsとのかわり</p>				
	5					4										20										6									
	A(1)ア					C(1)ア(ア)(イ)					B(4)アイ					B(5)ア					B(5)イ					B(1)アイ・B(2)ア									
i ~ 21					226 ~ 239・250 ~ 251					160 ~ 173・286					174 ~ 185					196 ~ 201					186 ~ 195・202 ~ 205					69 ~ 95					
2年 35時間	B 衣食住の生活 [食の生活]										C 消費生活・環境					生活の課題と実践	B 衣食住の生活 [住の生活]					A 家族・家庭生活			生活の課題と実践										
	3 さまざまな食品とその選択			4 日常食の調理							5 地域の食文化		6 献立づくり			7 持続可能な衣生活	2 購入・支払いと生活情報 3 消費者被害と自立		進め方と実践のまとめ方	1 住まいのはたらきとここちよさ 2 安全な住まいで安心な暮らし			3 持続可能な住生活	2 幼児の生活と家族		まとめ・発表・生活にかす									
	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品の選択と保存 加工食品の選択 食品の安全と情報 <p>輸送のエネルギー、食品の表示、水の安全と魚、食の安全を保つしくみ</p>			<ul style="list-style-type: none"> 調理の計画 おいしさと調理 ますます好きになる肉の調理 こんなにおいしい魚の調理 好きになる野菜の調理 <p>エコクッキング</p>							<ul style="list-style-type: none"> 地域の食文化 郷土料理づくり 		<ul style="list-style-type: none"> 一日分の献立 			<ul style="list-style-type: none"> SDGsとのかわり 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を活用した上手な購入 なくならない消費者被害 消費者の権利と責任 <p>事例を通して消費者の権利と責任を学ぼう</p>			<ul style="list-style-type: none"> 住まいのはたらき 住まいの空間 家庭内事故への備え 災害への備え <p>家の中にある化学物質への対策</p>				<ul style="list-style-type: none"> 幼児のころと今の自分 幼児の体の発達 幼児の心の発達 発達にとってのおとなの役割 <p>SDGsとのかわり</p>											
	18										4					1	8					3			1										
	B(3)ア(ア)			B(3)ア(イ)・B(3)ア(ウ)・B(3)イ							B(3)ア(エ)		B(2)イ				C(1)イ・C(2)アイ		ABC	B(6)アイ				A(2)アイ		ABC									
96 ~ 105			106 ~ 137・286							140 ~ 145		146 ~ 151				240 ~ 249・252 ~ 255		266 ~ 277	206 ~ 225・295 ~ 299				26 ~ 35		266 ~ 277										
3年 17.5時間	A 家族・家庭生活			生活の課題と実践	A 家族・家庭生活			B食生活 A家族・家庭生活	C 消費生活・環境					まとめ																					
	2 幼児の生活と家族 3 幼児とのかわり			まとめ・発表・生活にかす	4 家庭生活と地域のかかわり			5 持続可能な家庭生活	幼児食	3 消費者被害と消費者の自立 4 持続可能な社会					3年間でふり返る																				
	<ul style="list-style-type: none"> 遊びが必要なわけ 遊びを支える環境 ふれ合い体験の前に ドキドキワクワクふれ合い体験 ふれ合い体験は幼児からの贈り物 子どもの成長と地域 <p>廃物を活用した遊びづくり</p>				<ul style="list-style-type: none"> 中学生にとっての家族 家庭生活と地域での活動 多様な人びとが暮らす地域 地域に暮らす高齢者 高齢者とのかわり <p>SDGs</p>			<ul style="list-style-type: none"> 蒸し器を使ったおやつづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動が社会に与える影響 消費行動が環境に与える影響 世界の国々と連携した持続可能な生活の創造へ 消費者の権利と責任 <p>SDGs「つくる責任・つかう責任」</p>																										
	5			1	4			1.5	5					1																					
	A(2)アイ			ABC	A(1)イ、A(3)アイ				C(2)アイ					全																					
36 ~ 55・286 ~ 287			266 ~ 285	22 ~ 25・56 ~ 67			138 139	252 ~ 253・256 ~ 265																											

■ 持続可能な社会を生きる力と自立と共生に向かう力を育むことをめざした展開です。

- ・「C消費生活・環境」の内容を全ての学年に位置づけ、ABの内容と関連づけて計画しています。(吹き出し部分は、「C消費生活・環境」にリンクしている教科書の内容です)
- ・ABCの内容を毎学年に配列し、繰り返し学習をすることで、基礎・基本の定着と自立と共生へ向かう力を育むことをめざします。
- ・「生活の課題と実践」は、ABCの内容を一通り学んだ後に位置づけています。3回の「生活の課題と実践」の間隔を置くことで、個々のペースに合わせやすく、さらなる学びを吸収しやすくしています。

【例4】 2学期制対応の、持続可能な社会への見方・考え方を大切にした指導計画案

週(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35				
1年 35時間	週(時)	A 家族・家庭生活		B 衣食住の生活																																			
	学習内容	家庭分野のガイダンス 自分の成長と家族・家庭	「みんなで学ぶ衣生活の基本」 ・衣服で伝わるメッセージ ・自分らしくコーディネート ・上手な衣服の選択 ・まかせて衣服の手入れ	衣生活の自立 ・衣服の手入れ ・衣服の補修 まつり縫い(実技テスト) スナップつけ ミシン縫い (あずま袋の製作)	「アップサイクルで世界を変えよう」 ・アップサイクルとは ・製作計画 ・グループ討議 ・製作 ・プレゼン	「みんなで学ぶ住生活の基本」 ・住まいのはたらき ・住まいの空間 ・空気環境と防災・防犯 ・持続可能な住生活	住まいの安全 ・家庭内事故への備え 高齢者理解を含む	「家族のための防災ベストをデザインしよう」	生活の課題と実践 (衣・住生活) ・課題設定 ・計画 ・グループ討議	食事の役割 ・食習慣 食生活の改善点 朝食	生活の課題と実践 (衣・住生活) ・発表準備 ・報告会	栄養素と食品群 ・中学生に必要な栄養素 ・栄養素のはたらき ・水分と食物繊維 ・食品群別摂取量のめやす	「栄養バランスのよい弁当をデザインしよう」 ・献立ステップ1 ・栄養バランスを目で見て判断																										
	授業時数	2	2	6						4				2	2	3			2	3			2	4				3											
	学習指導要領	A(1)ア	B(4)ア(ア)(イ)	B(4)イ						B(5)アイ				B(6)ア(ア)(イ)		B(6)イ	B(6)イ・A(3)ア(イ)			B(7)ア	B(1)ア(ア)(イ)イ			B(7)ア	B(2)ア(ア)(イ)				B(2)イ										
教科書該当頁	i ~ 25	160 ~ 173	174 ~ 185, 196 ~ 201						186 ~ 203				208 ~ 217, 222 ~ 223		214	216 ~ 221			266 ~ 277	72 ~ 77			266 ~ 276	78 ~ 93				94・95											
2年 35時間	週(時)	B 衣食住の生活【食生活】														C 消費生活・環境				B 衣食住の生活	C 消費生活・環境				B 衣食住の生活【衣生活】														
	学習内容	さまざまな食品とその選択—食品の選択と保存 ・食品が食卓にのぼるまで ・生鮮食品 ・加工食品 ・食品の安全 ・食品ロス			日常食の調理 調理の基本と安全な調理 ・調理の目的 ・安全な調理 ・おいしさと調理 「うま味とだし」(実験) 「野菜の切り方と味」(実習) ・調理の基本 「じゃがいものガレット」(実習)				魚の調理 和食の献立 ・調理実習 (いわしのかば焼き ぎゅうりとわかめの酢の物、えのきと油揚げのすまし汁) 野菜の調理を含む				肉の調理 洋食の献立 ・調理実習 (煮込みハンバーグ・蒸し野菜 ・せん切り野菜スープ) 野菜の調理を含む				調理テスト ・きゅうりのせん切り	生活の課題と実践(食生活) ・課題設定 ・グループ討議 ・計画	「みんなで学ぶ消費生活」 ・消費生活のしくみ ・家庭経済における収入と支出 ・購入・支払いと生活情報 ・消費者被害と消費者の自立			生活の課題と実践(食生活) ・報告会	消費と環境 ・消費者市民社会 ・持続可能な社会				和装体験 「浴衣を着よう」 地域の高齢者との交流を含む												
	授業時数	6			7				4				4				1	1	3			1	6				2												
	学習指導要領	B(3)ア(ア)			B(3)ア(イ)(ウ)(エ)				B(3)イ				B(7)ア				C(1)ア(ア)	B(7)ア	C(1)ア(イ) イ(2)アイ				B(4)ア(ア)																
教科書該当頁	96 ~ 107			108 ~ 113				114 ~ 137				266 ~ 277				226 ~ 255			266 ~ 277	256 ~ 263				168 ~ 169															
3年 17.5時間	週(時)	A 家族・家庭生活														まとめ																							
	学習内容	幼児の生活と家族 ・幼児のころと今の自分 ・幼児の体の特徴 ・幼児の心の特徴 ・発達にとってのおとなの役割 ・遊びが必要なわけ ・遊びを支える環境	「赤ちゃん基平の製作」 ・和服の特徴 ・製作	幼児とのかかわり ふれ合い体験 ・ふれ合い体験の前に ・ドキドキワクワクふれ合い体験 ・ふれ合い体験は幼児からの贈り物	家庭生活と地域・社会とのかかわり ・子どもの成長と地域 ・家庭生活と地域での活動 ・多様な人びとが暮らす地域 ・地域に暮らす高齢者 家族・地域への感謝を込めて 持続可能な家庭生活	3年間をふり返る																																	
	授業時数	2	6				5				4				0.5																								
	学習指導要領	A(2)ア(ア)(イ)	A(2)ア(ア) B(5)アイ				A(2)イ				A(3)ア(ア)(イ)イ				全																								
教科書該当頁	26 ~ 41	192, 196 ~ 201				42 ~ 51				52 ~ 65																													

■ 2学期制に対応させ、「持続可能な社会の構築」を大切な見方・考え方として、「C消費生活・環境」は「B衣食住の生活」の学習の中で常に関連して学習する指導計画です。また、題材設定では、文化の伝承、地域とのかかわりを工夫しています。

- ・グループワーク等を多く設定して、主体的・対話的な深い学びをめざします。
- ・「生活の課題と実践」を1年と2年に設定し、学習したことを自分の生活にいかそうとする態度と力を育みます。3年の最後は、学習の総まとめとして、生徒から地域に発信できる実践をします。
- ・住生活の学習の中で高齢者理解を深められるように扱い、和装体験で地域の高齢者と交流を図ります。3年の「赤ちゃん基平」は「衣生活の製作」と「和装」「ふれ合い体験」に関連しています。
- ・発表の場や地域との交流の場を取り入れ、地域から評価されることでさらなる意欲につながられるようにしています。夏休みに、ものづくりフェアなどの作品及びお弁当コンクールにチャレンジできるように配慮を工夫しています。

例4の学習指導案

第1学年 評価の観点：知・技…知識・技能 思・判・表…思考・判断・表現 主…主体的に学習に取り組む態度

学習内容	時間数	教科書 該当頁	学習活動 【この項の学習課題／○生徒の活動、☆教師の活動】	評価の 観点
A 家族生活 家庭分野ガイダンス 自分の成長と家族・家庭	2	p. i ~ 25	■家庭分野の学習の見通しを立て、目標をもつ。 ○小学校の学習をふり振り返り、中学校での学習の目的、内容を確認する。 ○中学生として望ましい家族とのかかわり方を考え、話し合う。 ☆生活の見方・考え方や主体的・対話的で深い学びを大切に学習のプロセスを説明する。 ☆家族・家庭の機能を知らせる。	知・技
「みんなで学ぶ衣生活の基本」 ・衣服で伝わるメッセージ ・自分らしくコーディネート ・上手な衣服の選択 ・まかせて衣服の手入れ	2	P162~175	■「衣服で伝わるメッセージ」「自分らしくコーディネート」「上手な衣服の選択」「まかせて衣服の手入れ」について教え合う。 ○4人グループで4つのテーマを分担し、それぞれが先生役になり、教科書の内容を教え合ったりする。 ☆教科書をしっかり読み込ませる。同じテーマごとに集まり「教える」内容を確認させる。しっかり押さえてほしいポイントは指示書として出す。	知・技 思・判・表 主
衣生活の自立 ・衣服の手入れ ・衣服の補修 まつり縫い スナップ付け ミシン縫い (あずま袋の製作) 実技テスト	6	p.174~185 p.196~201	■布の繊維に応じた手入れや補修をする技能を身につける。 ○繊維の種類と性質、取り扱い表示について調べ、自分の衣服の洗濯をする。(レポート) ○まつり縫い、スナップ付けを練習する。 ○ミシンであずま袋を製作する。 ☆ミシン縫いの姿勢、下糸の出し方、縫いはじめ方、返し縫い、中表で縫うことを指導する。 ☆まつり縫いの実技テストをする。	知・技 思・判・表 主
「アップサイクルで世界を変えよう」 ・アップサイクルとは ・製作計画 ・グループ討議 ・製作 ・プレゼン	4	p.186~203	■不要になった衣服などをアップサイクルする(価値のあるものに高め再利用する)。 ○不要になった衣服などを持ち寄り、アップサイクルする製作計画を立てる。 ○グループ(4~5人)で話し合い、よりよい方法を検討する。 ☆製作計画を確認する。 ☆製作の基礎基本 P.196 ~ 201 を確認させ、適切な方法で安全な作業ができるようにする。 ○製作する。(製作時間が足りない場合は夏休みに製作する。) ○プレゼンの準備をする。 ○プレゼンする。評価し合う。 ☆プレゼンは4~5人のグループで行い、メンバーをかえて2~3回プレゼンさせる。(ワールドカフェ方式)	知・技 思・判・表 主
「みんなで学ぶ住生活の基本」 ・住まいのはたらき ・空気環境と防災・防犯 ・持続可能な住生活	2	P208~209, 210~212, 216~217, 222~223	■「住まいのはたらき」「住まいの空間」「空気環境と防災防犯」「持続可能な住生活」について教え合う。 ○4人グループで4つのテーマを分担し、それぞれが先生役になって教科書の内容を教え合う。 ☆この授業展開は2度目なので、前回の振り返りを活かして学習させる。	知・技 思・判・表 主
住まいの安全 ・家庭内事故への備え 高齢者理解を含む	2	p.214	■家庭内の危険箇所を見抜く力を身につける。 ○鳥瞰図から、危険箇所を見つけ安全対策を考える。グループで話し合い発表する。 ☆家庭内事故の件数の多さを知らせる。 ☆高齢者や幼児の立場からも考えさせる。	知・技 思・判・表 主
家族のための防災ベストをデザインしよう	3	p.216 ~ 221	■家族の中の一人を選び、その人のための防災ベストをデザインする。 ☆防災ベストについての概要を知らせる。 ☆事前に家族と話し合わせたり、実際に避難した方の経験談など調べさせる。 ○家族の一人を設定して、その人への思いを込め、防災・減災についての工夫をしたベストをデザインする。 ☆ワールドカフェ方式でプレゼンさせる。 ○防災について大切なことをまとめる。	知・技 思・判・表 主
生活の課題と実践(衣・住生活) ・課題設定 ・計画 ・グループ討議	2		■衣・住生活の「生活の課題と実践」に取り組む。 ☆課題と実践の進め方・発表方法を知らせる。 ○課題を設定し、解決のための方法を計画する。 ○4~5人のグループでよりよい方法を検討する。	思・判・表 主
食事の役割と食習慣 ・食生活の改善点 ・朝食	3	p.72 ~ 77	■自分の食生活の改善点を見つける。自分でできる朝食を考える。 ☆食事の役割、食習慣と健康の関係や朝食の大切さなどを知らせる。 ○自分の食生活の改善点や自分でつくれる朝食を考える。	知・技 思・判・表 主
課題と実践 ・発表準備 ・報告会	2	p.266 ~ 277	○結果をわかりやすくまとめ発表する。(ワールドカフェ方式) ☆廊下などに掲示する。	思・判・表 主
栄養素と食品群 ・中学生に必要な栄養素 ・栄養素のはたらき ・水分と食物繊維 ・食品群別摂取量のめやす	4	p.78 ~ 93	■栄養素や食品群についての知識を身につける。 ○食事摂取基準、5大栄養素のはたらき、食品群別摂取量のめやすについて、教科書を参考にワークシートにまとめる。 ○食品を食品群に分類する。 ☆食品成分表にもふれる。 ☆6つの食品群の小テストをする。	知・技 思・判・表 主
「栄養バランスのよい弁当をデザインしよう」 ・献立ステップ1 栄養バランスを目で見て判断	3	p.94 ~ 95	■献立作成をする。 ○教科書 p.94 ~ 95 の「から揚げ弁当」の栄養バランスを確かめ、よりよくする工夫を考える。 ○朝食・夕食も考え、1日の献立を考える。 ☆献立の立てる手順を知らせる。 ☆お弁当コンクール等があることを知らせる。	知・技 思・判・表 主

第2学年

学習内容	時間数	教科書 該当頁	学習活動 【この項の学習課題／○生徒の活動、☆教師の活動】	評価の 観点
B 衣食住の生活 さまざまな食品とその選択—食品の選択と保存— 食品が食卓にのぼるまで ・鮮食品 ・加工食品 ・食品の安全 ・食品ロス	6	p.96 ~ 107	■食品の表示や保存方法についての知識を身につける。 ○生鮮食品の旬や表示、保存の仕方を調べる。 ○加工食品の種類や特徴を調べ、加工食品の利用について考える。 ○加工食品の表示からわかることを調べる。 ○食品アレルギー、遺伝子組み換え食品について知る。 ○食品ロスや食品の安全について考える。	知・技 思・判・表 主

第2学年

学習内容	時間数	教科書 該当頁	学習活動 【この項の学習課題／○生徒の活動、☆教師の活動】	評価の 観点
調理の基本と安全な調理 ・調理の目的 ・安全な調理 ・環境に配慮した調理 ・おいざと調理(実験) 「うま味とだし」(実習) 「野菜の切り方と味」(実習) ・調理の基本 「じゃがいものガレット」(実習)	7	p.108 ~ 113	■衛生的で安全な調理のための知識を身につける。 ○安全な調理のためのポイントや加熱方法を知る。 ○環境に配慮した調理について知る。 ○五感と美味しさについて知る。旨味の相乗効果について調理実験する。(経節だしと昆布だし) ○野菜の切り方と切り方による触感の違いについて調べる。(きゅうり) ○「じゃがいものガレット」の実習をして包丁の扱い、焼く調理の基本を身につける。 ☆包丁の技能テストの課題を知らせる。	知・技 思・判・表 主
B 衣食住の生活 日常食の調理 魚の調理・和食の献立 ・調理実習 (いわしのかば焼き・きゅうりとわかめの酢の物、えのきと油揚げのすまし汁) *野菜の調理を含む	4	p.122 ~ 135	■魚の特徴や調理上の性質、衛生的な取り扱い方を知り、魚の調理ができる。 ○いわしの手開きをして、かば焼きに調理する。 ○和食の献立、盛り付け、配膳の仕方を実践する。 ○振り返りシートを記入する。五感を使って味を表現する。	知・技 思・判・表 主
肉の調理・洋食の献立 ・調理実習 (煮込みハンバーグ・蒸し野菜・せん切り野菜スープ) *野菜の調理を含む	4	p.114 ~ 121 p.130 ~ 135	■肉の特徴や調理上の性質、衛生的な扱い方を知り、肉の調理ができる。 ○蒸す料理の特徴を知る。 ○煮込みハンバーグに蒸し野菜を添える。洋食の盛りつけ方、マナーを実践する。 ○振り返りシートを記入する。五感を使って味を表現する。 ☆ガス台の関係でせん切りスープはまとめてつくる。	知・技 思・判・表 主
調理テスト ・きゅうりのせん切り	1	p.111	■正しい包丁の扱いができる。 ○きゅうりのせん切りをする。 ☆あらかじめ評価規準を知らせておく。 ☆待ち時間の課題を用意する。	知・技
課題と実践(食生活) ・課題設定 ・計画 ・グループ討議	1 + 1	p.266 ~ 277	■食生活の「課題と実践」に取り組む。 ☆課題例を知らせる。 ○課題を設定し、解決のための方法を計画する。 ○4~5人のグループでよりよい方法を検討する。	思・判・表 主
C 消費生活・環境 「みんなで学ぶ消費生活」 ・消費生活のしくみ ・家庭経済における収入と支出 ・購入 消費と環境 ・消費者市民社会 ・持続可能な社会	3 6	p.226 ~ 255 p.256 ~ 263	■消費生活のテーマについて調べ発表する。 ○「消費生活の仕組み」「売買契約」「支払い方法」「上手な情報活用」「消費者被害」「消費者を支えるしくみ」「消費者の権利と責任」の8つのテーマに分かれ、教科書やタブレットを使って調べる。 ○わかりやすく伝える方法を工夫して発表する。 ■消費者市民社会、「買い物は投票」を実感する。 ○「どのほうれん草を選びますか?」「どのTシャツを穿きますか?」のワークを通して商品を選ぶことは、これからの社会をつくっていくことを実感する。 ○消費行動が社会や環境に与える影響について知る。 ☆画像や映像の資料を用意する。 ○SDGsの課題について自分たちができていることを話し合い、これからのライフスタイルを考える。	知・技 思・判・表 主
B 衣食住の生活 和装体験 「浴衣を着よう」 高齢者との交流 課題と実践(食生活) ・発表準備 ・報告会	2 2	p.168 ~ 169 p.266 ~ 277	■浴衣を一人で着る。和装の立ち振る舞いができる。 ○浴衣の着方を教わりながら、浴衣を着る。 ○和装の立ち振る舞いを実践に行う。 ☆地域の高齢者の方(日本舞踊の先生方)をゲストティーチャーとして招聘する。 ○結果をわかりやすくまとめ発表する。(ワールドカフェ方式) ☆廊下などに掲示する。	知・技 思・判・表 主

第3学年

学習内容	時間数	教科書 該当頁	学習活動 【この項の学習課題／○生徒の活動、☆教師の活動】	評価の 観点
A 家族・家庭生活 幼児の生活と家族 ・幼児のころと今の自分 ・幼児の体の特徴 ・幼児の心の特徴 ・発達にとってのおとなの役割 ・遊びが必要なわけ ・遊びを支える環境	2	p.26 ~ 41	■幼児の発達と生活、遊びの重要性について知る。 ○自分の小さい頃を思い出しながら、ワークシートに幼児期の特徴をまとめる。 ○子どもが育つ環境としてのおとなの役割を考える。 ☆画像や映像資料を準備する。	知・技 思・判・表 主
「手ぬぐい基平の製作」 ・和服の特徴 ・製作	6	p.192 p.196 ~ 201	■手ぬぐいを使って、3歳児用の基平(上衣のみ)を作る。 ○和服の特徴を知る。 ○裁縫用具の正しい使い方を確認して、製作する。 ○紐づけは、結びやすく、丈夫につける方法を工夫する。 ○製作しながら、自分がこのサイズの服を着ていた頃があったことを実感する。	知・技 思・判・表 主
幼児とのかかわり ふれ合い体験 ・ふれ合い体験の前に ・子どもの成長と地域 ・ふれ合い体験で感じたことわかったことをレポートにまとめる。(お礼状も兼ねる。) ☆自分も同じような時期があって、周囲の人々から温かく見守られていたことに気付かせる。	5	p.42 ~ 51	■保育園を訪問してふれあい活動をする。 ○ふれあい活動での課題を持ち、留意点を理解した上で、ふれあい方を工夫し実践する。 ☆他教科で学んだことを披露することで、幼児が喜ぶことを知らせる。(合唱、英会話、ダンスなど) ○自分が作った「手ぬぐい基平」を着せて、幼児の反応を実感する。 ○ふれ合い体験で感じたことわかったことをレポートにまとめる。 ☆自分も同じような時期があって、周囲の人々から温かく見守られていたことに気付かせる。	知・技 思・判・表 主
家庭生活と地域・社会とのかかわり ・子どもの成長と地域 ・家庭生活と地域での活動 ・多様な人びとが暮らす地域 ・地域に暮らす高齢者 持続可能な家庭生活 家族・地域への感謝を込めて	4	p.52 ~ 65	■地域の中で自分たちができていることを実践する。 ○家庭生活と地域のかかわりについてのさまざまな事例を知る。 ○3年間の家庭分野の学習をふまえて、地域への感謝の気持ちを込めて今自分たちができていることを形にしてプレゼンする。(クラスもしくはグループ活動) 例)おもちゃをつくって保育園に寄付する。 地域のバリアフリー・バリアフリーマップをつくり配布する。 マスクをたくさん作って、福祉施設に寄付をする。 食品ロスを少なくするためのポスターをつくって地域に貼る。 ☆事前に役所や高齢者・幼児施設に連絡を取り、何ができるか、贈呈先などを相談する。	知・技 思・判・表 主
3年間をふり返る	0.5		■3年間の学習をふり返る。これからの家庭生活を考える。	

技術・家庭 家庭分野の評価の観点とその趣旨

観点別学習状況の評価

新学習指導要領では、各教科等における目標や内容について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に基づいて再整理されている。これらを踏まえ、新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到に整理されている。

家庭分野の評価の観点とその趣旨

【知識・技能】

家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

【主体的に学習に取り組む態度】

家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

「内容のまとめりごとの評価規準」を具体的に作成する際のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>文末を、「～について理解している」、「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。</p> <p>・「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成する。</p>	<p>基本的には、教科の目標の(2)※に示されている学習過程に沿って、各題材において、次に示す四つの評価規準を設定し、評価することが考えられる。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要がある。</p> <p>具体的には、</p> <p>①家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見いだして課題を設定している」、</p> <p>②解決の見通しをもって計画を立てる際、生活について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について(実践に向けた計画を)考え、工夫している」、</p> <p>③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」、</p> <p>④計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを論理的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりしている。」として、評価規準を設定することができる。</p>	<p>・「思考・判断・表現」と同様に、基本的には、各題材の学習過程において三つの側面(①粘り強さ②自らの学習の調整③実践しようとする態度)から評価規準を設定し、評価することが考えられる。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要がある。</p> <p>具体的には、</p> <p>①粘り強さについては、その文末を「～について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている」、</p> <p>②自らの学習の調整については、その文末を「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」として、評価規準を設定することができる。</p> <p>③実践しようとする態度については、その文末を「～について工夫し創造し、実践しようとしている」として、評価規準を設定することができる。</p>

※「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編」文部科学省 p.65「家庭科」、技術・家庭科(家庭分野)の学習過程の参考例

令和3教 内容解説資料 BJ 非売品



開隆堂出版株式会社

本社/〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03-5684-6111 (代表)

北海道支社/〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8F ☎011-231-0403
 東北支社/〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4F ☎022-742-1213
 名古屋支社/〒464-0802 名古屋市千種区皇が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6F ☎052-789-1741
 大阪支社/〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 ☎06-6531-5782
 九州支社/〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3F ☎092-733-0174